

日本ボーイスカウト静岡県連盟

平成22年度 団委員長セミナー 記録

(10月15日 小林)

1. 講演内容

1) スローガン「地域社会に根ざすスカウト活動の推進」

<理事長 土山和雅さん>

(概要) BS 県理事長、BS 指導者、そして本職の和尚さんの視点から、社会状況をふまえ、スカウト、保護者に伝える必要がある内容をお話いただいた。

(補足: H22 より規定集が大幅改定されており、団指導者はご一読を)

(ポイント)

①社会環境: 子供の健全成長に対しマイナス方向の因子が増加。

- ・TV、ゲーム機: ・集団での遊び、野外での遊びの減少=体験の場の減少
 - ・受身→無気力、無感動
 - ・死んでも生き返る→ 命の尊さを感じない。
- (背景に、信仰心の希薄さ)

- ・携帯電話: ・コミュニケーション能力の偏り
- ・すぐジュース: ・我慢の欠如、食育

②教育環境: 知育・徳育・体育・食育 の必須要因が伝えられていない!

学校教育、スカウト活動以前に、家庭教育が不足! =親自身も教育不足

※いずれも体験が不足、特に命の尊さを感じる機会が少ない。(親も不足)

③「しこみ、したて、しつけ、しごき (鍛える)、しあげ」の重要性!

ピーパー年代指導者の質が重要!

④ボーイスカウト活動の魅力 (他教育との違い)

- ・「信仰」を重視! = 命の尊さを伝える
 - 雑草という(名の)草はない!、害虫という(名の)虫はいない。
 - (人間の身勝手な感覚)
- ・「スカウト・班・進歩」制度 = 「学年を超えた縦社会」での経験の場
 - 先輩をたたえる気持ち、後輩に対する励まし
- ・「おきてと誓い」 = 児童憲章の元になった
- ・「総合学習」、「勝敗ではなく、自己研鑽を尊重」(=スポ少、子供会とは次元が異なる)

⑤地域の中で: まずは「あいさつ」、家庭、学校、社会と手を携えて(スカウトだけでなく)

- ・「今日は」=相手をたたえる言葉、仏教用語
 - ・「いただきます」、「ごちそうさま」=命に感謝する言葉、仏教用語
- ※学校給食で、一部の極端な親のクレームでとりやめになった事例あり。
→そういうことにならないように!
(全ての信仰において、命の尊さに関する考えはあるはずなのに・・・)

・「もったいない」、「おかけさま」=日本語にのみ存在する言葉

→世界に今、広がりつつある!

* () 内は小林補足

2) スカウトに感動を与えるには「若手指導者からのメッセージ」

まつむら ゆうすけ
<静岡第35団 VS 隊副長 松村悠佑さん>

紹介：富士スカウト、静岡大学在学中（4年、来春、修士課程に進学）、22歳

指導者2年目（昨年WB-VS、今年5月WB-BS終了）

今年の全国大会時、到着セレモニー、報告を行った自転車キャラバン隊を指導。

①自らのスカウト経験について

- ・CS 隊：小5年の1年だけの入隊＝他のCSのようにうまくいかず悔しい思い。
→みかえそう!との思いで、その後の活動へ
- ・BS 隊：上進、初級スカウトでいきなり班長。他隊は1級スカウトが班長、とまどい。
一方で、「任された」といううれしさ。「ありがとう」＝認めてもらえる場所
- ・13NJ：大きな感動、仲間
- ・VS 隊：高校入学後、苦手なものにチャレンジと、テニス部に入部したが、休日も練習・試合で、スカウト活動との両立の難しさを感じ、ギター部（平日の活動のみ）へ。
→自分にとって、スカウト活動の優先度が高いことを自覚。

②指導者として

- ・隊長には、「厳しさ」、「やさしさ」、そして「魅力」が必要！
- ・自己研鑽を重ねつつ（修士へ進学決定）、指導者として活動していきたい。
（常にチャレンジ!）

さわだ ひろひさ
<富士第10団 BS 隊長 澤田浩久さん>

紹介：富士スカウト、京都大学卒、県庁勤務、

在学中に京都で指導者講習会を受講、就職後、地元でBS隊長へ。

①自らのスカウト活動

- ・CS 隊：S63 入隊。弱虫でハイキングが苦手だった。
→朝霧野外活動センターでのキャンプ、本栖湖までのハイキングを踏破。（達成感）
- ・BS 隊：BS 隊の制服制帽（特にハット）にあこがれ上進。
しかし、制帽がペレーに変わってしまい大ショック。（後にハットを購入!）
- ・10NJ：雷の体験＝自然の力を感じた。（畏敬の念）
- ・シニアスカウト：3月の天城山、雪中ハイクは初めての体験、感動。
→高校で山岳部に入部。
- ・SS→VS：サイパン派遣のリーダーを担った。富士スカウトに。

②若手指導者として、団へのお願い

- ・大学、就職、等で地元を離れていても、団から声をかけ続けてほしい。
→自分の場合、団から連絡をもらえていたことで、静岡を離れた京都で指導者講習会を受講し、地元で就職後、スムーズに団の活動に戻ることができた。
- ・指導者がBS活動に携わる際の諸事情（仕事、家庭、等）に対し、理解と援助が重要。
- ・若い指導者にとって、年上～同年代の保護者への接し方が難しい。
→団として保護者や周囲への働きかけ、説明をお願いしたい。
- ・指導者として活動することの魅力：子供たちとのふれあい（笑顔、達成感、等）
プロジェクトの進め方は仕事にも活用できる。

2. 分科会討議内容

A. 保護者から見た魅力ある指導者とは？

①保護者から見た魅力ある指導者、

- ・楽しい活動を提供できる。
- ・安心して任せられる。前向きに努力している。
- ・スカウト活動に、新しいものを取り入れている。
- ・スカウトにとって楽しい活動を行う。
- ・人格的にしっかりしている。
- ・「魅力ある・・・」とは大変奥深い。
- ・見る立場（指導者、保護者、スカウト）によって評価が異なる。

②指導者に望むこと、団として支援が必要なこと。

- ・リーダー同士の交流を多くする。（お互い切磋琢磨し向上の場として）
- ・「厳しい」も大切：厳しさ、楽しさ、やさしさのメリハリが重要。
- ・女子スカウトの対策（BSはもちろん、CSでも配慮が必要なケースがある）
→ 団の組織・体制を整える。（女性リーダーを入れる。指導者の教育）
- ・ビーバー・カブのリーダーの意識を変える。
 上進させる。（ビーバー→カブ→ボーイ）
 保護者に口コミを勧める（隊集会の機会に）
 ホームページの活用。
- ・団やバックボーンがしっかりしていてこそ魅力ある指導者ができる。
- ・団、家族、みんなでフォローする。

B. スカウトから見た魅力ある指導者とは？

- ・校長先生よりも、話を良く聞く。明るい。声大きい。誠実で、子供に慕われる。
- ・指導者の資質を高めるには・・・いろいろ悩んでいる。
- ・ロープワーク、手旗の指導は、スカウトに喜ばれる。（達成感が高い）
- ・翌月の計画は前月早くに知らせる。活動回数は、なるべく多い方が良い。
 間が開くと子供達が離れる。（足が遠のく）
- ・団だよりで、先月の活動を知らせる。
- ・誓いと掟に基づいた教育をしてくれる。
- ・指導者が、スカウトを叱っても信頼してくれる関係が必要である。
- ・指導者が、年ごとに会社で偉くなり（仕事が忙しくなり）活動しにくくなってきているので、早く新しい指導者を設けたい。
- ・社内報で、ボーイスカウト指導者活動が掲載され表彰された。
 →そういう理解のある職場は理想的。
- ・芋煮のちょっとした仕事でも、子供は楽しいと感じる場合がある。
 →子供の心理：自分の役割を果たした満足感＝班制度、組制度の良いところ。
- ・隊長の技量：迎えに来た父兄に一人づつ話をしている。（＝信頼感を得る）
- ・スカウトの活動についてくる指導者が信頼される。

- ・障害児を扱っている団は新鮮な事が多く、指導者が感動する機会が多い。
- ・どのようにしたら、若い指導者を養成できるのか？
- ・団を作る事は大変だけど、良い指導者を育てることはもっと大変。
- ・指導者がしっかりしていないと、スカウトが入ってこない。
- ・見える場所で活動してアピール、勧誘につなげる。
- ・公民館祭りで、スカウト募集をしている。

C. 愉快的団会議、楽しい団委員会

①自団の状況報告

- ・「愉快的」とか「楽しい」とか考えたことがなかった。定期的な懇親会は開催している。
- ・団委員会、きちんとした形で開催したい。(役割をしっかり自覚してもらって)
- ・団委員会メンバーに年配の方が多く、和気あいあいとやっている。
懇親会はテントで、語りながら飲み会。
- ・団会議は定期的で開催している。保護者をとりこむのが重要。
団委員長、リーダーのやる気を保護者に見せる。(伝える)
- ・団委員会、団会議は定例会として開催している。
- ・リーダーが不足。団会議の出席は11名程度。
スカウト獲得のために、ちらし・活動予定を幼稚園などに配っているが・・・。
- ・団委員会・団会議を合同で開催している。また、団委員の研修を行っている。
ボーイスカウト講習会までは参加してくれるが、リーダーになってくれる人は少ない。
- ・団会議ではリーダーの悩みを聞くことができない。
- ・団会議、団委員会を別々に開催していたが時間が取れなくなって、今は合同開催。
保護者とコミュニケーションを取りながら団のPRをしている。
- ・(自団では) 団委員の役割を明確にしている。
(せっかく引き受けてくれた) リーダーが転勤でいなくなってしまうことが多い。
- ・団会議・団委員会を合同で開催している。出席は良好。
隊長、副長とのコミュニケーションのために隊長会議を別途開催している。
団合同 (BVS,CS,BS,VS) の行事を年4回実施。

②フリーディスカッション

- ・団会議、団委員会は、何回かは合同でも、しっかり(目的意識をもって)やれば良いのでは？
- ・団内の研修会を開催して、リーダーの資質を高め、スカウトに魅力を伝える。
- ・宿泊を伴う活動や、夜の懇親会は参加が難しい人もいる。(特に母親)
- ・初心に帰り、保護者会をやりたい。そして団委員になってもらい、その中からリーダーへ。

◎スカウトの活動の様子を保護者に見てもらいたい。

- ・団全体 (BVS,CS,BS,VS 合同) の行事・活動を企画 → 保護者にも手伝ってもらう。

◎スカウト入団のために、口コミが一番効果的! → 保護者に楽しむことを感じてもらう。

◎連絡事項は短時間で要領よく! (事前資料がポイント)

- 残った時間で何をやるか? ここが団委員長の活躍の場!

D. 団委員長のつぶやき

(情報連絡)

- ・ 地区と県連、日連からの情報の流れが問題ではないか？

地区からの情報が受け入れられていない。(ユニフォームの更新計画)

(全国大会が年1回開催され、ユニフォームの改正案、試作との情報は開示されているが、地域団までは届いていない)

(財政)

- ・ 金、人手、全てが不足。
- ・ 不況事情から、スカウトの金銭負担を軽減すべき。
- ・ ポスター印刷物のコストダウン必要。(また、配布時期が遅いと役立たない！)
例) 登録料の減額、パンフレット、資料の経費削減
- ・ 活動の中で経費節減の努力。例) スカウト制服のリユース(寄付)を実施。
- ・ リーダーの制服は団で半額負担、保険は団で全額負担している。
スカウトOBに寄付金を募る。案内作成中。
- ・ 年会費16000円/年のうち、1/3が上納金。活動費が不足。
→特別寄付をお願いして活動費を確保している。

(団運営)

- ・ 隊→団との連携ではなく、対立関係となってしまった。
→(まずは、)カブ、ボーイ、ベンチャー、各隊の活動リーダーの不満を受け入れ解決策が見つからないか、団の範囲内で解決したらどうか？
- ・ 母子家庭のスカウトが多くなり、保育所的存在となっている。
- ・ 団委員長は、マネージメントが大切(人材、財政、リスク)
- ・ 団委員長は苦勞が多いが、奉仕が自分の楽しみと受け取れる状態を!

(傷害保険)

- ・ 傷害保険の登録に時間がかかっている。
- ・ 保険は4月からの1年間、上進は9月(の団もあり)、半年、1年の期限にできないか？

(指導者育成)

- ・ 若手の指導者確保の方法にはどんな手段があるか？
- ・ 隊活動にOBスカウトの参加を呼びかけ。
- ・ 若いリーダー(スカウトOB)2名活躍中。
- ・ 富士章取得者がリーダー希望し、家族全員参加。
- ・ 妙高でのジャンボリー時に参加したスカウトが炊事係で活躍。
→OBとなった30歳代に、他団が勧誘(目を向けて話し合う)し、指導者となってくれた。
現在、BVSのリーダーとして活躍中。
- ・ リーダー要請(WB研修所)の過程変更、金銭面、仕事との兼ね合いで負担にならないか？
- ・ BS隊の保護者は団委員になってもらう。
- ・ 団委員の役割分担し、活動実施。
- ・ スカウトハウスの修繕、リフォームを皆で実施し、保護者同士のチームワークが良くなった。
- ・ 親子で活動に参加してくる親を指導者に。
- ・ リーダーの勉強会実施。

- ・リーダーが活動しながら、自己満足 (& 自己成長) できる活動の姿が好ましい。
 - ・リーダーの不平不満を聞き、ガス抜きをしてあげる。
- (スカウト獲得、募集)
- ・体験会を実施している。団毎でなく地区で募集を実施。
 - ・ロコミが効率が良い。
 - ・友達がいる場合、体験入隊も効果がある。
 - ・募集時、保護者の参加も誘う。
 - ・ピーバースカウトが増加中。(10名+体験3名)
鉛筆削りでナイフの使い方、玉子焼き作り体験など。

E. 若い指導者を囲んで (富士第10団 BS 隊長澤田さん参加)

- ・団委員長の役務について
 - ・隊集會に、団員長が顔を出す。挨拶をする。特にキャンプなどは必須。
 - ・指導者の育成! = 人材見極め、声かけ、支援
- ・団委員長ラウンドテーブル (地区単位)
 - ・指導者の養成について、
 - ・団委員長が「核」になる。夢とストーリーを持つ!!
- ・仕事が優先するが調整はできるのか? (隊集會の運営)
 - ・他指導者に隊集會をお願いすることもある。→計画書があれば交代は可能。
- ・若い指導者は、なかなか隊集會に参加できない。
 - 隊長が、必要に応じ1声かける。話しかけをする。
 - 参加したときには、仕事を分担して任せる。
- ・富士章取得について
 - ・まわり (団委員長、指導者) の意識が必要→本人に意識付け
- ・指導者としての魅力
 - ・自分が楽しいから!
 - ・スカウトの反応、笑顔が楽しみ。
 - ・地区での仲間がいる。
 - ・自分の居場所
- ・スカウト経験者が集まる機会を! 「最近どうしてる?」

3. アンケート集計結果

(集計データ参照)

22. 団委員長として若い指導者の育成のためにやっていること

(指導者候補の獲得)

- ・指導者の確保に苦勞している。
- ・スカウトの保護者の中でリーダーにふさわしい人材にアタックしている。
- ・OBとコンタクトを取り、隊プログラムを連絡し、活動への参加を求めている。
- ・RSにボーイスカウト講習会を受講させている。
→隊の活動に参加させ、副長補にさせている、→研修所への参加を話しかけている。

(指導者の育成、支援)

- ・各種研修や訓練に参加してもらっている。(9)
- ・スカウト上りの指導者をできる限りサポートしやすい環境にする。
- ・(指導者の)仕事の都合を考慮する。
- ・技術的・精神的なバックアップ。
- ・日常のコミュニケーション。
- ・個別に指導者の心構え、隊運営の方法を指導。
- ・スカウト育成は各隊の隊長に一任し、その状況を見守る。
- ・スカウト精神の理解促進、子供との接し方。
- ・(指導者が)わからない事に指導する。

(隊活動への支援)

- ・(VS、RSとの)交流をもたせる。(2)
- ・行事でのリーダーの補佐を依頼。
- ・常に活動内容に気をつけて、行動、服装に注意をはらっている。(2)
- ・BVS、CSの保護者は、原則、ボーイスカウト講習会を受講させ、隊指導者を目指してもらえようとしている。(2)
- ・隊活動に参加して交流、アドバイスする。

24. 団委員長として苦慮していること

(団運営)

- ・財政面。
- ・行政の協力と理解があると良い。学校・学校長の積極的な協力が欲しい。
- ・基本に沿った活動の展開。
- ・各隊の行事、プログラムに苦勞している。(2)
- ・各隊と団委員会の連携。
- ・団会議の有効活用を図りたい。
- ・団委員が協力しやすい、参加可能な団委員会を毎月やっている。
- ・ボーイまでは上進するが、ベンチャーへの上進が少ない。

(指導者確保)

- ・隊指導者の若返りが急務。(3)

- ・リーダーの高齢化。(2)
- ・ビーバー隊の指導者が不足。(活動に支障がある)
- ・男性の若手指導者の発掘、育成に苦慮。
- ・リーダーの確保と質。

25. 自団のアピールポイント

- ・地域との交流が活発化。生涯学習の一員として協力している。
最近、入隊者がふえつつある。
 - ・発団 59 年、地域に根ざした活動を展開し多くのスカウトを育成した事。
 - ・組織的な機能と継続性。
 - ・地域行事への活発な参加。(バザー、ふれあい広場、等) (2)
 - ・年 4 回 (夏合同野営/舎営、カヌー、ハイキング、BP 祭) 合同プログラムで、各隊の交流、団活動と団委員研修を行っている。
 - ・団 (全体の) プログラムを年 2 回行い、対象者に出席を求めている。
 - ・登録人員 100 人以上達成 (2)
 - ・(ボーイスカウトごっこではない) 本当の意味でのスカウト活動の実践、それを行う各隊隊長のレベルの高さ、スカウト人数の増加。
 - ・リーダーが非常に素晴らしい人たちである。
 - ・BVS・VS の活動。(内容の充実度)
 - ・育成会の活動が非常に協力的である。
 - ・ドリル (教育プログラムの意味か?)
 - ・スカウトがリーダーになりつつある。
 - ・浅間大社エリアなので財政運営に余裕。
 - ・スカウトが明るい。
 - ・農地を借りて、野菜収穫している。(2)
- ・スカウト全員が男の子で活動を進めている。(GS と競合せず棲み分けの意味か?)
 - ・団が小規模で人数が少ないので、団全体の活動ができる。(本来のスカウトの趣旨とは矛盾?)

26. 団担当コミッショナーについて

- 団訪問している。(3)
- 各団の情報を得ている。
- 隊指導者のラウンドテーブルを支援している。
- 具体的な指示をしている。(2)
- △問題ある団への支援はしているようだが、団・隊での活動をみたことがない。(わからない)
- ×全く活動していない。
- ×地区内で活動しているとの報告が皆無。
- ×この制度に疑問を持っている。
- ×(地区として) 団担当コミをおいていない。

4. タスクチーム反省会 (当日 15:55~16:50)

(講演会について)

- ・理事長の話、内容が良かった。
- ・子供の育成は6歳までが非常に重要=家庭教育が大切。印象に残った。
- ・若いリーダーの話というのも良かった。
- ・これまでの講演は「成功事例」、今回の内容は新鮮だった。

(分科会について)

- ・テーマ別に分科会に分けて行ったことは良かった。
- ・団委員長の悩みが本音で聞けた。
- ・障害者の団の運営、指導者確保の難しさが伝わった。
- ・分科会、熱気があったのでは？
- ・分科会Dで財政の問題の指摘が強かった。(→今後の検討課題)
- ・分科会の進め方のつめが甘かった。
- ・分科会の話題が発散するのを修正するのに(方向性をもたせるのに)苦労した。
- ・分科会の発表5分は短かった。

(運営について)

- ・昨年までは県連スタッフ4名での運営。今回のタスクチームでの運営は良かった。
- ・全体通して、良かったと思う。(参加者もスタッフも得るものがあった。)
- ・新しい試みは価値があった。
- ・タスクチームに参加して、良い経験ができた。
- ・タスクチームメンバーとして事前打ち合わせに(十分)参加できなかった。
- ・団員長が参加できない場合、代理者OKとしたが出席は3人程度。連絡不足か？
- ・アンケートに、あいまいな質問がいくつかあった。
→もっと具体的に回答、記載できるように工夫が必要。
- ・今回のまとめをどう活用、展開するのが重要。
- ・ここに出席してくれる団は(比較的)OK。参加してこない団は問題深刻。
- ・今回の方法を基本にすれば、東中西の3会場での実施も可能→出席率向上も図れるか？
- ・今回の団委員長セミナーはあくまできっかけ。
→ 団に戻ってからアクションにつなげてもらうために、地区での支援が必要。

以上